

ご利用者の感想 / オーストリア ウィーン /透析



[Dialysezentrum Donaustadt](#)

[＜ご利用者の感想 目次＞](#)

病院名 : [Dialysezentrum Donaustadt](#)

酒井様、6月のウィーンでの透析の際はたいへんお世話になりました。

本日15分くらいのDVDを送ります。

その後あわただしく日が経ち、記憶もあいまいになりつつありますが、簡単なメモを記します。ありがとうございました。

透析を受けた施設 : Dialysezentrum Donaustadt

2009年12月オープンの最新の透析センター、72機の透析機を備え、430名の透析患者に対応する。

職員は40名。2010年地下鉄U2号線が延長になり新駅が

近くに(300m)できるので交通も便利になる。

現在はウィーン中心部から車で20分～30分。

建設費は約18億円(1500万ユーロ)、ウィーン健康保険機構が30%、ウィーン市が70%を負担した。

その運営はキリスト教修道会「慈悲の兄弟会(医療施設を広く運営)」が行

っている。
この施設がオープンしたことにより、
ウィーンでは216の透析機が
850名の透析患者をケアできるこ
とになり、
毎年6%~12%増加している患者数
に対して今後10年間に対応できるよ
うになった。

6月26日(土) 午前日本に到着し、
西ウクライナへ。

6月29日(火) 夕刻透析のためウィ
ーンに入る。

6月30日(水) 午前6時30分にホ
テルに Eliska さんが迎えに来てくれ
る。

真っ赤なコンバーチブルのスポーツカ
ー。20分ほどでウィーン北東部の
ドナウシュタット地区(22区)のド
ナウシュタット透析センターへ。
オープンして半年の新しい施設。ガラ
スとメタルカラーが目立ち、
清潔で広々とした印象を受ける。3階
建。

2階にオープンサロンがあり、患者の
待合室となっている。

小さなキッチンがあり、カップ、グラ
ス、シンク、食器洗い機、
コーヒーメーカーが置いてある。
サンドイッチは1種類(ハムとチーズ
入り)で勝手にいくつ取ってもよいら
しい。

コーヒーメーカーは4種類のコーヒ
ー、ココア、お湯(紅茶用)のボタン
がある。

年配の方が多いが皆良く食べ、良く飲み、良くおしゃべりしている。

7時30分頃から次々とナースが来て患者を透析室へ連れて行く。

多くの小部屋に分かれているようだ。

廊下の一部が体重計になっている。

車イスの人は車イスのまま測定される
(車イスには自重が書いてある)

私が案内されたのは4人部屋、透析機はガンブロ、一人一人のための

テレビ&ラジオがついている。

私を担当した技士はアレックス(アレクサンドラ)、英語が達者。

ビデオ撮影の許可を得る。

そのためか緊張して汗だく。何年透析しているか聞かれる。

6年と答えると、「まだ若いのになぜそんなに長く時間を無駄にしているのだ?」

「先日、日本人の透析をしたが10年間透析をしていると言っていた。信じられない」

「現在オーストリアでは3年以内に腎移植が受けられる。

目標は1年半だ。日本では移植待ちが長いのか?」と次々と質問。

移植は調べたこともなかったので、日本の状況をうまく説明できない。

唯一の知識「たしか日本仏教会が消極的だと思う」と答える。

私は返しの血管に針を入れにくいらしく、アレックスも失敗する。

そこで医師が超音波検査機で血管の映像を見せて指示した。

時間900を超えると激しく血圧が下

がることあるため 3.5 kg もの体重増加が
気がかりだったが、服を着たままの体重測定だったのでまあ良いかと思ったのが
判断ミス、3時間30分を過ぎたころ
血圧が上70まで下がる。
塩水注入され、水を飲むように指示される。終了後もめまいがして起き上がれない。
甘いコーヒーを飲んだり、サンドイッチを食べたりしたが、なかなか回復しない。
結局1時間ばかり休み、血圧が110まで回復したところでベッドから降りた。
Eliska さんが見かねて空港まで送ってくれた。
止血については何分必要かと質問されるが、知らないので答えようなし。
止血後、腕に包帯を巻かれる。
2時間後、腕全体がだるくしびれた。
もっと早く包帯を取るべきだった。

2010/9/2

[<ご利用者の感想 目次>](#)

•